



CONTENTS

Top Opinion

1

「国際データ比較」から

未来構想PF 副会長 斉藤 親

VOICE

2

オフィス活性化プロジェクト

(株)JR東日本建築設計 梅村 直裕

たすきリレー

4

海外業務に想う（下）

(株)トーニチコンサルタント 大澤 伸男

WS Topics

5

国際データ比較

PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

6

私のインフラ巡礼



～村山貯水池～

昭和2年完成の多摩湖で親しまれる人造湖
(鉄建建設 白石 浩三さん)未来構想PFのホームページ
(HP)をご覧ください。会員はもちろん社会に大きく
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)

Top Opinion

「国際データ比較」から

未来構想PF 副会長 斉藤 親

未来構想PFの2023年度が動き出しました。前号巻頭言で
林会長からもあったように、3年余のコロナ禍から解放され
実りある年となるよう、私からも尽力させて頂く所存です。

さて振り返れば、私は、3月に東日本大震災のあった2011
年の秋、JR東日本の顧問嘱託拝命の直後に当PFの会員と
なりましたが、当時、PF通信掲載の「国際データ比較」が
目に留まり、多岐にわたる分野からのデータ紹介とその解説
は、とても興味深いものでした。勿論、それは今に至り続け
ており、集大成し小冊子にしては、と思うこともあります。

さてこの「国際データ比較」について、今年5月に博報堂から（私にとって）
大変ショッキングな発表がありました。東方アジア8か国—日本・中国・タイ・
ベトナム・インドネシア・フィリピン・マレーシア・シンガポールの15～59歳男
女11,000人を対象に、質問約470項目について、インターネット調査を行ったも
のですが、日本が8か国中最上位又は最下位となった下記12項目に、私は強い衝
撃を受けました。（詳細は、「博報堂・グローバル定点」から閲覧下さい）

○日本の最上位項目—①地球環境保護行動をしてない ②自分の将来は暗い

③高い給料より休み ④人付き合いは面倒 ⑤お金が欲しい ⑥人を羨むことあり

●日本の最下位項目—①今後自分の経済状態は良くなる ②愛を信じる ③家族
時間を増やしたい ④夫婦で家事、子育て、仕事等の役割は平等に分担 ⑤体
力、健康のため運動している ⑥子供は親の老後の経済的面倒を見る方が良い

皆様のご感想は如何ですか？ 正確な評価には、調査方法等精査する必要も
ありますが、総じて日本の「人口減少&少子高齢化」という他の成長国家には
ない国勢、国情の反映か—との思いが浮かびました（因みに、日本に近い成熟国家
ともいえる中国、シンガポールが日本に次ぐ項目が多々見られました）。

このように、既に過去経験のない複雑な世情に入りつつある日本ですが、一方で多
方面に亘り交流の進む諸外国からは、その日本人が繊りなす礼儀や飲食、行事・文化
等に対し、評価は高まっていると報じられています。日々、人々が色々な思いを抱き
ながら行き交う日本国というプラットフォームにおいて、我々は、国際的な視点から
自らをしっかりと見つめ、新しい発想と知恵からの将来展望を描きたいものです。





VOICE

オフィス活性化プロジェクト

(株) J R 東日本建築設計 梅村 直裕

■ はじめに

私は、JRE設計に設計職として2012年に新卒入社しました。これまで上信越事務所(高崎)や出向(JR本社)などいくつかの職場を経験しておりますが、現在は新宿本社(JR南新宿ビル)に勤務しております。今回の投稿にあたり、初期メンバーの一員として参画しているオフィス活性化PJ(2021年8月〜)について、取り組みをご紹介します。

■ 経緯と目的

近年のコロナによる環境変化により、在宅勤務やコワーキング等により働く場所の選択肢が増えましたが、一方で「同僚との会話」や「他プロジェクトの動向」など、社内で情報に触れる機会が減っている部分もあると感じます。また、当社ではフリーアドレス化のためのオフィス工事(ハード面)は以前に完了していますが、「WEB会議時の音」「仕事に合わせた多様な席」「リラックススペース」「緑」等の、新たなニーズが社員アンケート等から分かりました。

通常の設計業務ではハード面を中心に図面作成等行いますが、働く環境向上のために、自分たちのオフィスを実験場(ラボ)と捉え、ソフト面(運用等)も検討・実行することで、「ユーザー視点」「運営者視点」での感覚を強化・醸成し、設計者としての幅を広げることも目的としています。アイデアや工夫により、「やってみよう!」の精神をチームメンバーが共通で持ち、試行錯誤しながら少しずつ進めています。

■ メンバー

各本部よりメンバーを選出し全社横断的なPJとして構成し、若手〜中堅〜統括・まとめ役でバランスよく議論を行えるようにしています。メンバーの予定が合いやすい朝の時間を利用し、隔週で打合せを行っています。また、できるだけ多くのアイデア・視点を積み上げることで、より広く巻き込んでいけるように、任期は基本1年で交代としています。(1期メンバー:14人、2期メンバー:15人)

■ 主な取り組み

①「LAB letter(ラボレター)」の配信

ニュースレター形式で定期的に社内へメール配信を行っています。活動内容の発信とともに、いいね!やコメント機能を投票ボタンで追加し、双方向のコミュニケーションを作るきっかけとしています。(写真①)

②「LAB session(ラボセッション)」の開催

社員の取組み発信やディスカッションの場として開催しています。発表テーマは、他薦でも自薦でも可としており、プロジェクト紹介だけでなく、新入社員・中途社員紹介の回があったりと、社員同士のざっくばらんなコミュニケーションの場とすることも目指しています。また、執務室フロア中央に構えるガラス張りの会議室で開催し、「公開ラジオ形式」でWEB配信することにより、在宅勤務や移動中の方でも参加しやすい場づくりを行っています。(過去8回実施) (写真②)



写真① LAB letter



写真② LAB sessionの様子



③「LAB trial(ラボトライアル)」の実施。

社員の声をもとに、オフィス環境向上のための取組みを進めています。実験後には、アンケートや測定を行い、定量・定性的な分析をもとに次回へフィードバックしています。また、実際に自身が体感体験することで、設計業務に生かしていくことも目的としています。

(写真③、④、⑤)

Vol	タイトル	目 的
1	LAB Space検討	声出しやプレストを行いやすいスペース
2	オフィス美化	模型置き場、キャビネット、備蓄品の再配置
3	バイオフィリックデザイン 試行設置 サウンドマスキング試行設置 ワイヤレス充電器 360° WEBカメラ設置	緑視率を高めることによる効果検証 隣からの音を聞こえにくくする効果検証 デスク上の備品デザイン 対面・WEB会議併用時の議論活性化
4	吸音パネル試行設置	個室内の吸音性を高める音環境向上
5	コミュニケーション活性化	自己紹介シートやPJ情報を掲示し、同僚の 情報に触れる機会を増やす
6	会議室美化	備品見直し、収納整理
7	リフレッシュスペースの試 行設置（予定）	リラックスしやすい什器により、切換えを 行える場所の創造



写真③ vol.3：バイオフィリックデザイン試行設置



写真④ vol.4：吸音パネル試行設置（個室内）



写真⑤ vol.5：コミュニケーション活性化
(柱型や棚上に自己紹介シート掲示)

■おわりに

コロナによる強制的な環境変化を経験し、仕事内容やスケジュールに合わせて働く場所の選択肢を持ち効率をあげていく重要性和、出社することで得られる「リアルな価値」を改めて感じています。メール・チャット・電話だけでは得られない対面のスムーズさや、同僚との関わり合いが仕事のモチベーションになる部分もあります。

オフィス活性化プロジェクトを通し、ちょっとした工夫やアイディアで実現できることがあるとともに、また後押しコメント等をいただくこともあり、現在は3期メンバーにてスタートしようとしています。

今後もよりよいオフィス環境作りに関わっていきたくと考えております。（※取組みにご興味ありましたら、JRE設計梅村 (umemura@jred.co.jp)まで、ぜひご連絡いただけると幸いです。）



たすきリレー

海外業務に想う（下）

(株)トーニチコンサルタント 大澤 伸男

(今回は、海外業務を始めたころの状況を中心に述べた。)

次に、**インドネシア国、ジャカルタMRT南北線の延伸計画策定**のため1ヶ月半ほどジャカルタに滞在した。そのときのエピソードを紹介したい。

赴任早々、休日に剣道の稽古をやっているとの情報を得て、見学に行ったところ現地に派遣されていた赤門剣友会の後輩2名と会うことができた。1名は業務の傍らジャカルタ剣友会長として活動していた。後輩の一人から、一緒に稽古をしませんかと声を掛けられ、素振り用の竹刀しか持参してないから残念ながらできない旨返答したところ、親切にも私が貸しますからと言って翌週稽古着と防具一式をホテルまで担いできてくれた。二人のおかげで思いがけず現地のインドネシア人と稽古をすることができ業務と剣道の稽古の両面で、充実した貴重な体験をすることができた。

最後に**インド国、デリーメトロ建設プロジェクト(1,2,3期)**には1997年の10月頃から、コンサル共同企業体5社の責任者のひとりとして、2020年の3期の完了まで20年あまりプロジェクトマネジメントに直接関わってきた。会社にとってインドにおける初めての大型プロジェクトであり、専門外のこともやることとなり苦心があった。

インド案件等で多忙な時期も熱心に剣道の稽古を継続したことで心身ともにリフレッシュし、次々と発生した課題にも根気よく対処することができた。

このデリーメトロ建設プロジェクト(1,2,3期)は、令和2年度土木学会技術賞の一つとなった。関係機関は多数にのぼるが、土木学会技術賞への応募は、現地で苦労された多数の方々の思い浮かべながら私が発案し、主な関係者で応募手続きを進め、受賞に至ることができた。関係者の今後の励みにもなると思われ感慨深いものがある。

主な受賞理由は、①デリーメトロ都市鉄道公社(DMRC)が円借款を受けて、日本のコンサルタント、建設会社等とともにわずか20年で約350 kmの大鉄道網を整備したこと。②インドの工事現場に、日本の

安全文化を導入し、工期を守る意識を浸透させこと。③所得や階層に関わらず人々が安心して利用できることとなり、女性専用車両の導入とともに女性の社会進出も後押ししたこと。等である。

デリーメトロプロジェクトの好評はプロジェクトを実施した日本を中心とした多数の関係者の真摯な努力、総合力の賜物であり、日本とインドの信頼関係を深めることができた。最初に開業した主に高架の1号線開業式典は当時のインド国、バジパイ首相により執り行われた。その後も開業の都度、首相等政府要人が、開業式典に参列されインド国として重視されてきたプロジェクトであることが分かる。

(写真③、④、⑤)



写真③ 2005年7月にソニア・ガンジー国家諮問委員会議長（前列中央サリー姿）等が参加してデリーで開催されたデリー初の地下鉄、2号線の開業式。後方中央に、日本とインド両国の国旗と日本政府の支援によるとの表示が見える。



写真④ 2005年7月、2号線の開業式の翌日、2号線の電車を降りた人達



写真⑤ 2号線と3号線の乗換駅、ラジブチョーク駅の様子、左に停車中の3号線電車が見える。

現在も、インド国内各地の大都市の都市鉄道の建設においてこのデリーメトロの建設事例、経験が生かされつつある。

海外業務は大変なときもあったが、変化に富み楽しく生きがいを持ってとりくむことができた。剣道を続けてきたお蔭で、色々な業務に正面から根気よく取り組むことができた。

国内外を問わず、多彩な方々と出会えたことは、私の人生の宝となっている。



WS Topics

首都圏郊外拠点駅の在り方WS
(最終報告会：第8回全体会議)



去る8月9日に最終報告会となった未来構想プラットフォーム調査研究ワークショップ<首都圏郊外拠点駅のあり方>第8回全体会合が開催されました。

第5～7回の全体会合では各回において3グループがそれぞれのテーマについて最終報告を行い(第5回：相模原駅、第6回：村岡新駅、第7回新木場駅)、第8回となった当日はファシリテーターを中心に、3グループが取り組んだ成果を「首都圏郊外拠点駅の今後の在り方(一般論)」として総括的にまとめて、WSのメンバー、有識者の皆様、参加者全員から50年先(2100年)を見つつ、30年後(2050年)を念頭に置いた様々な今後のあるべき姿について意見が出され、活発な議論が交わされました。3グループの具体的な成果につきましては、次号以降紹介いたします。3グループのメンバーの皆様、長期間にわたる活動、大変お疲れ様でした。



未来構想PF 2022年/2023年WS(第8回)
2023. 8. 9

首都圏郊外拠点駅の今後の在り方(一般論)

目標年次：50年先(2100年)を見つつ、
30年後(2050年)を考える

1. 検討の前提
 - (1) 環境・社会の変化
 - (2) コロナ感染症の影響
 - (3) 首都圏の都市構造の変化
 - (4) 交通機能の変化
 - (5) 首都圏鉄道網の変化
2. 今後の在り方
 - (1) 立地条件
 - (2) 導入機能など
 - (3) 駅構造/デザイン



今月の国際比較データ



● 日本は失敗を恐れる生徒が多い



日本の教育は物事に必ず1つの正解があると考え、早く効率的にたどり着くことを重視してきました。「正解主義」という傾向。幕末以来、追いつくべき目標が常に国外にあった日本に高度成長をもたらした半面、容易に変わらない「岩盤」と化しました。高校や大学の入試がその典型。明治時代から続く、筆記試験の点数順にふるい落とす仕組みの下、子どもも教師も失点回避に躍りになってきました。

経済協力開発機構(OECD)が各国の15歳を対象にした調査でも、受験競争が激しい東アジアの国・地域は失敗を恐れる生徒の割合が高くなっています。OECD加盟国中では日本が77%で最高です。

「同調圧力と正解主義は価値創造やイノベーション創出の最大の敵」。政府の総合科学技術・イノベーション会議は昨年4月に公表した教育・人材育成に関する政策パッケージで訴えました。学校教育の正解主義への国自身の反省の弁といえます。「失敗学」提唱で知られる畑村洋太郎・東大名誉教授は「価値創造につながる失敗は『良い失敗』だ。その欠如が日本の行き詰まりの根底にある」と指摘しています。AI時代の「人材立国」実現は脱・正解主義から始まると言えるでしょう。

表 失敗への恐れを感じる生徒の割合

台湾	88.5%
北京・上海・江蘇・浙江	78.0%
日本	76.7%
韓国	75.0%
英国	62.8%
米国	58.4%
OECD平均	56.4%
ドイツ	47.6%
フランス	47.5%

(出所) OECDの2018年学習到達度調査(PISA)



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① ダビデの星を見つめて (寺島 実郎 著 NHK出版)

英国流の世界戦略、華僑パワーに続く寺島実郎氏3部作の完結編となる本書は世界に広がるユダヤ・パワーに焦点を当てたもの。ユダヤ人の価値観が「高付加価値主義」(知恵を重視)と「国際主義」(世界的視野で物事を考える)というのは、まさに体験的ユダヤ論から出た著者の視点で、正鵠を射たものとなっている。プーチンのユダヤ嫌いも書かれており、今のロシア、ウクライナを知る上でもお薦めしたい一冊である。

② 湘南モノレール50年の軌跡 (森川 天喜 著 神奈川新聞社)

大船～湘南江の島間を結ぶ湘南モノレールは、世界的にも珍しい懸垂型モノレールの技術を採用。最高速度は75km/hだが、鎌倉市西部の起伏に富んだ丘陵地帯を走ることもあり、あたかも「ジェットコースター」のような乗り心地を体験できるという。本書では「なぜ、湘南の地にモノレールが計画されたのか?」「モノレール建設工事は、どのように進められたのか」「全線開通後、半世紀の道のり」などの章に分けて、半世紀に及ぶ歴史をひも解いている。個人的には短命に終わったドリームランドモノレールについて気になったところである。

③ 世界でいちばん熱い日本酒 (岡本 進 著 朝日新聞出版)

図書館の新着図書のコーナーでたまたま手にした「世界でいちばん熱い日本酒」。舞台は東北地方、特に福島県の小さな酒蔵で跡取りを担った若者たちがその道何十年という熟練の杜氏をも唸らせる日本酒を造ってしまうノンフィクション。一昔前だったら考えられなかった、うまい酒を広めようとする酒販店のアドバイスと協力、新参者にもバイオテクノロジーを応用した酒造りを教える教育体制、そして何よりも競い合いながら高みを目指すライバルの存在。これらが重なりあって、日本を代表する名酒を誕生させた若き蔵人たちの青春群像に迫った日本酒好きにはたまらない一冊である。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28



私のインフラ巡礼



「村山貯水池 (通称：多摩湖)」 (東京都東大和市)



村山下第一取水塔



堤体から眺めた村山貯水池

村山貯水池は着工から実に12年の歳月をかけて昭和2年に完成した東京都水道局が管理する人造湖です。現地に赴くと当時の土木技術者の顕彰が目立つばかりですが、実は7つの集落の162戸の移転により成り立った歴史を持ちます。移転先では苦労を重ねた厳しい現実があったそうです。1千万の都民の水を守るために本当に顕彰すべきは土地と生活を手放し湖底に沈んだ村の住民だったのかもしれない。折しも、鉄建建設では東京都水道局と協働して多摩川水道水源林の保全活動を行っています。自然の営みに感謝し、広い視野と将来を見据えた眼を持ったインフラ技術者の育成はいつの世にも求められています。それが持続可能な世界に繋がるのですから。

(鉄建建設) サステナビリティ推進室 白石 浩三さん)

編集後記

7月後半から全国各地で猛暑日を記録する暑い日が続いております。この陽気では、エアコンの効いた室内でのんびり過ごしたい気持ちもありますが、夏の風物詩である大きな花火を見たい気持ちにもなります。最近の花火大会では、物価高や人手不足のため開催中止となることもあるようですが、一方で、新しい演出などに挑戦してエンターテインメント性を充実させ、有料観覧席を設けるなど、工夫を凝らしているところもあるようです。賛否両論あるようですが、いつまでも鮮やかな花火が観れることを願っております。(S.Y)